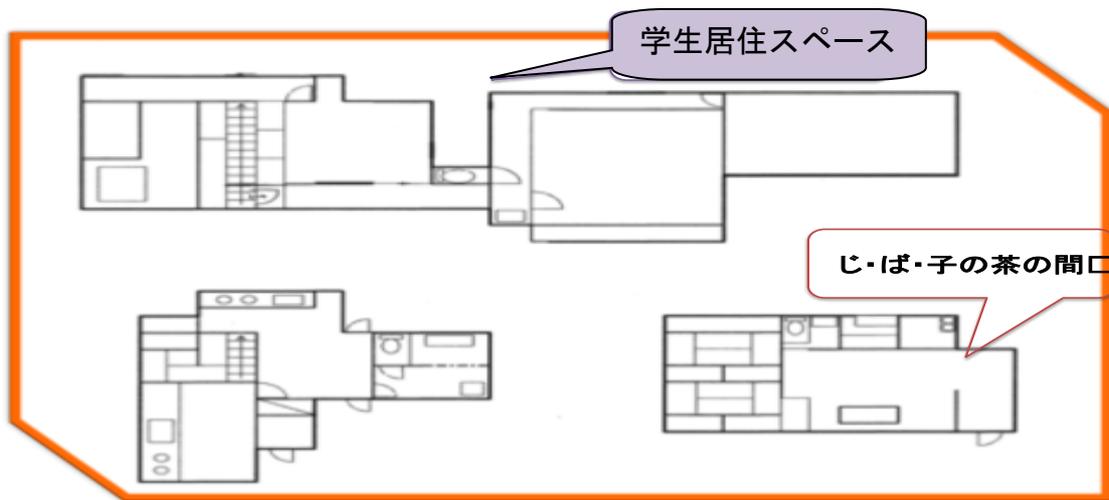


城東じ・ば・子の茶の間における学生による地域福祉実践報告

社会福祉学科 堀川涼子

人口減少・少子高齢化が進む城東地区にある空き家(津山市上之町 372)を借り上げ、地域支援活動の拠点として整備を進めた。(拠点名「じ・ば・子のおうち『支縁』」)

この家に美作大学生5人(社会福祉学科2・3・4年生)を居住させ、城東まちづくり協議会による「じ・ば・子のおうち」活動への参加、さらに城東地区の様々な伝統行事活動などへの協力参加を行った。



じ・ば・子のおうち「支縁」

支縁入居学生の平成 28 年度の主たる活動は以下の通りである。

*4月～平成 29 年 3 月 毎月城東まちづくり協議会定例会へ出席

*4月～平成 29 年 3 月 毎月じ・ば・子のおうち運営委員定例会出席

4月 4日 美作学園理事長への活動報告会

4月 9日 さくらまつり 城東事業参加

4月 10日 子どもの居場所事業 丹後山ハイキング参加

4月 23日 子どもの居場所事業 こいのぼり参加



5月 14日 子どもの居場所事業 プラ版づくり参加

5月 21日 子どもの居場所事業 田んぼづくり参加

6月 4日 子どもの居場所事業 花壇づくり参加

6月 18日 子どもの居場所事業 名札づくり参加



7月 27日 荒神宮 夏祭り 準備・片づけ参加



8月 11-12日 じ・ば・子のお泊まり会参加



10月 8日 じ・ば・子の大運動会



11月 1日 城東むかし町参加



11月19日 じ・ば・子の文化祭&高齢者訪問



12月8日 地域の皆さんと交流忘年会（於；茶の間）



12月17日 じ・ば・子のクリスマス会



平成29年

2月20日 子どもの居場所事業 餅花作り参加

3月18日 子どもの居場所事業 城東地区雑めぐりに参加



3月19日 城東着物歩き



3月9日 地域の皆さんが送別会を開催



3月21日 卒業式後、地域の方が門出を見送り



3月21日 新入居者説明会

4年生が2人卒業により退去となり、新たに29年度より新2年生と新3年生が入居することが決まった。



「じ・ば・子の茶の間」事業

1. 地（知）の拠点としての活動

茶の間のスペースを活用して、主に地域住民と支縁入居学生との行事ごとの打ち合わせや交流懇親会等を開催した。

さらに、これまでは城東まちづくり協議会との連携だけであったが、津山市連合町内会城東支部にも、「おあしすカフェ」の後援を承諾いただき、城東支部の総会で支縁の活動を紹介していただくなど、地域団体との連携の幅を広げることができた。

大学内では、来年度にむけて社会福祉学科だけではなく、他学科・短期大学部との協働できる事業に向けた話し合いの場を持つことができた。

2. 「おあしすカフェ」（認知症カフェ）の開催

現在、津山市には約 4,500 人の認知症の人が暮らしている。こうした人やその家族は様々な悩みや苦しみを抱え、地域の中で孤立した生活を余儀なくされている。このため、たとえ認知症になっても、住み慣れた地域でいきいきと暮らしていくための支援としての居場所づくりが必要となっている。こうした居場所づくりの取り組みとして、「茶の間」を活用して認知症カフェ「おあしすカフェ」を開設し、毎月 1 回開催した。

4月26日・5月24日・6月28日・7月26日・8月23日・9月9日・10月14日・11月11日

12月9日・(1月は20日に予定していたが、大雪のため中止)・2月17日・3月10日 計11回

平成28年度(28/3月~29/3月)		「おあしすカフェ」月別来店者数							ご来店者計	備考
内訳欄	ご来店者内訳									
月	①当事者(本人)	②介護家族	③地域住民	④福祉系専門職	⑤美作大学教	⑥おあしすの会	⑦その他			
3月	1	3	3	2	5	5	1	20	美作大学卒業生	
4月	3	2	4	4	5	7	0	25		
5月	1	1	5	2	6	5	10	30	笠岡 認知症カフェ、食物学科学学生、新聞記者	
6月	3	5	6	3	7	7	10	41	ファミリークリニック、ワーカーズコープ	
7月	3	5	3	3	6	7	0	27		
8月	0	2	2	2	4	3	0	13		
9月	1	2	3	2	3	5	2	18	津山市役所協働推進室、倉敷市船穂高齢者支援センター	
10月	2	3	4	1	5	7	0	22		
11月	1	2	5	3	5	7	0	23		
12月	1	2	4	2	5	11	8	33	認知症のひとと家族の会(岡山県支部・笠岡支部)	
2月	1	3	5	0	5	4	0	18		
3月	1	4	4	2	6	4	0	21		
合計	18	34	48	26	62	72	31	291	※視察者はすべて「その他」欄へ計上	
平均	1.5	2.8	4.0	2.2	5.2	6.0	2.6	24.3		

さらに、より認知症本人や家族のためのカフェになるように、岡山県内 42 か所で開催されているカフェへアンケート調査を行い、33 か所より回答を得た。

認知症の方 や そのご家族 のための 「おあしすカフェ」 ってこんな雰囲気です



カフェ開催当日には、宮川沿いの「理容シマダ」さんの看板の下に、「おあしすカフェ」の看板を掲げています。

ゆったりとお茶を飲みながらお話していただけます。初めての方でも気軽に入れる雰囲気です。学生曰く「親戚のおうちに来みたい。」



物忘れが増えた、自信がなくなった、不安が大きい、そんな方のお話を学生がゆっくりとお聴きしています。

町内の回覧板を見ました、と母娘で来てくださった方がいます。お母様も穏やかなお顔で「また来たいわあ」と帰られました。

介護家族の方の悩みや思いを、同じ介護者やベテランの家族者の会のみなさん、保健福祉の専門職がしっかりと受けとめ、ともに分かち合っています。



いつも地域のみなさんが、お手伝いに来てくださり、お客さまを温かく出迎えてくださいます。大変お世話になっています。ありがとうございます。



どうぞお近くに「出かけるところが少なくなった」「介護のことで精いっぱい」そのような方がいらしたら、おあしすカフェをご紹介ください。

○感想

この春卒業した支援入居学生の感想

私は、城東地区に美作大学が借り上げた家を、じ・ば・子のお家二号店「支縁」として、5人でシェアハウスをしていました。

この「支縁」の目的は、城東地区に学生が住み込むことで「城東の住民」の一人として、じ・ば・子のおうちや日常的な高齢者への支援（声かけ、ゴミ捨て、買い物支援、お話相手等）や地域活動に取り組むことです。

じ・ば・子の活動（毎月の運営委員会、定例事業、季節ごとの行事、子ども委員等の取り組み）にかかわるだけではなく、毎月一回あるまちづくり協議会に参加したり、地域の清掃活動、行事に参加させていただいて、アパート生活ではなかなか味わえない多くのことを経験させていただいています。

今日は卒業式の後にみなさん集まってくださり、写真を撮ってくださいました。

お忙しい中、これだけの方が集まっていただき卒業を祝ってくださり、みなさんの温かさや人の繋がりを感しました。

先日支縁を退居しましたが、サプライズで送る会もしていただき驚きました。入居して1年半、大したことは何もできなくてみなさんにして頂くことばかりだったのに、たくさん「ありがとう」と言っただけ感激しました。学生時代にこんな体験をできたのは、私の宝です。ここに住めたことを誇りに思います。本当にありがとうございました。

この春卒業したおあしすカフェにかかわった学生の感想

約1年間、認知症のご本人やそのご家族が、ゆっくり話ができる場所、くつろげる場所を目指して活動に取り組んできた。その結果、参加者同士で自分の体験談を気兼ねなく語り合い、学生との会話も楽しむなど、参加者にとって心の休まる場になってきたと思う。

おあしすカフェはレクリエーションなど特別なことはせず、家庭的な雰囲気の中でゆっくり話をするができる。また運営をするにあたって、地域包括支援センター職員や保健師などの専門職や、おあしすの会、美作大学生など多くの人に関わり、それぞれが役割を分担して活動しているので、参加者同士や学生との会話を楽しむことに加え、専門職との関わりを持つこともできている。

学生にとっては、参加者としてしっかりコミュニケーションを取りながら、教科書では学べない実際の体験談や想いに触れられる貴重な機会になっている。さらに、「ここで話をするのが楽しみだ」「ぜひまた来たいな」という声を聞くことができ、心からやりがいを感じている。

今後もさまざまな人と協力し合いながら、継続して取り組んでいくことで、広く周知され、より一層活発になっていくと信じている。

◆ 成果の総括

空き家と大学生の力を活用して、人口減少、少子高齢化の進む城東地区の地域支援活動に取り組んだ。

①支縁活動による成果

「じ・ば・子のおうち『支縁』」の活動では、学生たちの地域行事への参加等により地域住民の皆さんに認知され、相互のつながりも強くなってきている。特に近隣の皆さんからは、「高齢者ばかりの町内に若い人が住んでくれていることで元気が出る。」という声が聞かれた。町内会では役員となり、書記の役割をいただいた。城東地区全体では、城東むかし町や荒神宮、ひな祭りなど、様々な地区行事に参加し、地域づくりの力になることが出来た。これまでの活動で作って来た地区住民との信頼関係やつながりを基盤として、よりいっそうの訪問活動や安否確認、ゴミ出し等の支援に取り組んでいくことが必要となる。そのための一定の取り組み成果は生まれたと評価できる。

また、学生たちも単なるアパート生活では得られない様々な貴重な経験をすることが出来、地域の皆さんから声をかけてもらったり、頼りにしてもらえ喜びを感じるとともに、地域のルールを学ぶ生活となっている。こうした学びや成長が、他の学生への良き刺激となり、地域活動への関心が生まれて来ている。

②「じ・ば・子の茶の間」活動による成果

今年度は、茶の間を活用して認知症カフェを毎月1回開催した。当事者である「津山市認知症の人と家族の会」のメンバーと協働して行えたことで、こじんまりしているものの、来られた人の思いをしっかりと受けとめることができるカフェになっている。また、城東地区の愛育委員の方が毎回カフェの準備のお手伝いに来てくださり、そのほか町内会長等も顔を出してくださるため、城東地区における認知症の理解・啓発の場にもなっていると言える。

母親の介護のため、仕事も辞めて地域で孤立していた男性が、カフェに来るようになり、そこからじ・ば・子の行事やこけいからだ体操等にも出るようになって、地域住民とのつながりができたことは、最も大きな成果であったと言える。

まだ認知度が高くなく、多くの方へ呼びかけができていないため、来年度は必要な方に情報が届き、ニーズに答えられるカフェにしていきたいと考えている。